



TITLE:

# <大會抄録>カローシュティ－文書の年代について

AUTHOR(S):

長澤, 和俊

---

CITATION:

長澤, 和俊. <大會抄録>カローシュティ－文書の年代について. 東洋史研究 1978, 37(3): 454-454

ISSUE DATE:

1978-12-31

URL:

<https://doi.org/10.14989/153700>

RIGHT:

ドを核とする都市經營と會社政廳による支配との對立であつた。そこで、この都市蜂起を、1、東インド會社の貿易政策とそれへの在地商人・手工業者層の對應、2、マドラスの都市的性格、3、蜂起集團のギルド的性格、という視點から検討したい。

### カロシユティー文書の年代について

長澤 和俊

カロシユティー文書の年代については、先年、ケンブリッジ大學のブラフ教授が二三六—三二一年に比定する詳細な研究を發表され、ついで榎一雄博士はその説を大體首肯されながらも、若干の補訂を加えられて、二五六—三四一／三年とする説を發表された。

これらの高説は多年この文書の研究に没頭された兩碩學の結論として、まさに精緻な考證の粹を盡したものである。しかしここに二、三年、魏晉の西域經營を檢討した結果、私は右の高説に若干の疑問を抱くようになった。

ブラフ教授はカロシユティー文書中に見える王の稱號の變化に注目し、アムゴーク王十七年を二六三年に比定した。それは『晉書』卷三、武帝紀太康四年（二八三）條の

八月、鄯善國遣子入侍

をマヒリ王即位の時のこととし、逆算したものである。

しかし魏晉の西域諸國との關係を追跡してみると、晉初は河西地方に動亂が相次ぎ、かえって魏初の西域經營の方が活潑である。最

近カロシユティー文書を精査した結果、アムゴーク王十七年は魏太和二年（二八八）に比定すべきであり、文書の年代は二〇三—二八八／九〇年に比定されるべきであるとの結論に達した。

### インドネシア共產黨武力蜂起の失敗と

メッカ巡禮者との關係（一九二六—二七）

永積 昭

一九二六—二七年の交、オランダ統治下でインドネシア共產黨はスマトラ西部およびジャワの各地において武力蜂起を行なった。時期尙早でもあり、準備不足でもあったこの蜂起はオランダ植民地政府によって彈壓され、以後十數年の反動政策時代を迎えるのである。

そのインドネシア共產黨員の大部分は國內で處刑されたり、または邊地に追放されたりした。しかし一部の者はイスラム教の聖地メッカに潛入し、同胞の巡禮者に對して政治宣傳を行なっているとの情報が入り、オランダ外務省および植民省の注目を集めた。

インドネシアで最大の信者数を持つイスラム教は、聖地巡禮を信者の神聖な義務のひとつに數えている。インドネシアは地理的に聖地から最も遠いにもかかわらず、全世界からの巡禮者中、極めて大きな比率を占めていた。とくに問題の時期には、イスラム曆の年廻りもよく、ゴムその他熱帶農産物の好況も幸いして、同地およびマライ半島出身の巡禮者数は、史上空前にのぼった。

政治宣傳を行なっていたインドネシア共產黨員は幹部ではなく、